令和8年度 第1回綾瀬高等学校学校運営協議会【議事録】

日　時：令和8年6月23日（火）15:30～17:00

会　場：会議室

出席者：有馬委員（綾瀬高等学校PTA会長）、石井委員（綾瀬市立寺尾小学校校長）、岩峯委員（綾瀬高等学校前PTA副会長）、大部委員（綾瀬市手をつなぐ育成会会長）、金子委員（座間市立相模中学校前校長）、堺委員（綾北中学校校長）、吉田委員（綾瀬市寺尾南自治会会長）、 根本委員（綾瀬高等学校校長）

横溝副校長、関根教頭、八木事務長、進藤、牧田、日裏、柳原、剱持、山本美、山田（記録）

1 開会

2 校長あいさつ

今年度も委員の意見も取り入れながら学校運営をより良いものにしていきたいとの意向が示された。教職員へのアンケート結果では、強みとして「生徒の素直さ」と「教職員の協働性」が挙げられた。一方で、「業務量の多さ」「生徒の主体性の涵養」「学校としてのビジョンの不明確さ」が課題として明らかになった。また、インクルーシブ教育の推進に伴う課題や、地域との連携、ICTの活用の重要性についても言及された。加えて、教員不足の問題や志願者数の減少、生徒・保護者の価値観の多様化、働き方改革への対応など、複合的な課題があることが共有された。

こうした状況の中で、業務の効率化を図りつつ、生徒の主体性を引き出し、特色ある学校づくりを進めていきたいとして、率直な意見を求めた。

3 委員の紹介及び委嘱

金子委員（座間市立相模中学校前校長）
石井委員（綾瀬市立寺尾小学校校長）
堺委員（綾瀬市立綾北中学校校長）
大部委員（綾瀬市手をつなぐ育成会会長）
吉田委員（綾瀬市寺尾南自治会長）
有馬委員（綾瀬高等学校PTA会長）
岩峯委員（綾瀬高等学校前PTA副会長）

4 職員紹介

（略）

5 会長選出

金子委員を会長として選出

6 協議

（1）学校教育計画（副校長）◆資料参照 学校要覧P10～11

綾瀬高等学校グランドデザイン、スクールポリシーおよびスクールミッションは昨年度から継続し、本年度の方向性について説明がなされた。

教育計画についても4年間計画の中での本年度の目標であるという説明を差し上げ、また、組織改編によりグループを横断した業務体制となっていることが説明され、学校全体で柔軟に対応している現状への理解が求められた。

（2）令和8年度 学校目標（参照：学校要覧P10）

① 教育課程、学習指導・・・教務G

ICTを活用し、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育成するとともに、障害の有無に関わらず協働的に学ぶ環境づくりを継続する。

新入生にはWindows PCを購入させており、費用は高額であるが、教育効果および卒業後の活用も見据えた導入である。今後さらに活用を進める方針。

また、「共に生きる社会」の実現を意識し、特別募集生徒だけでなく一般生徒にも学習面での合理的配慮が広がっている。

② 生徒指導・支援・・・生徒支援G、生徒会G

生徒支援グループでは、「他者を思いやり尊重する心」を育成目標とし、全員を取り残さない支援体制の構築に努めている。

個別対応にとどまらず、学年や分掌を越えた情報共有を行い、多様な事案に対応できる体制を形成している。

生徒会活動では、「やらされる活動」からの脱却を目指し、生徒の主体性と満足感の向上に取り組んでいる。部活や学校行事等を通じての地域との連携を強化し、活動内容をホームページ等で積極的に発信する方針である。

③ 進路指導・支援・・・進路支援G

多様化する入試制度の中で、生徒が自己理解を深めながら進路を選択できるよう指導する。社会の動向に流されず、自らの将来を考える力の育成を重視する。

過去の進路データの収集が難しくなる中、学校として情報収集を強化し、卒業生の事例も参考に具体的な指導を行う。

模擬試験の実施を通して進路意識の向上を図るほか、インターンシップについても低学年から積極的に案内し、学年と連携してキャリア教育を進める。

④ 地域等との協働・・・研究開発G

地域と連携したインターンシップや、桜まつり・老人ホームでの発表活動など、地域貢献活動を積極的に展開している。

これらの取組はホームページ等で発信し、地域理解の向上と参加者の拡大を目指す。

⑤ 学校管理、学校運営・・・総務G、教頭

「命を大切にする」ことを基本とし、防災訓練はすでに実施しており、次回も予定されている。

施設・設備の点検は全職員で対応しているが、修繕箇所も多く、関係各所と連携しながら安全な学習環境の整備を進める。

自転車安全やSNS利用について、外部講師による講演や日常的な注意喚起を実施しているが、今後さらに取組を強化する必要がある。

教頭からは、業務過多や人員不足といった課題が示され、対策として留守番電話機能や「すぐーる」の導入などによる業務軽減が進められていると説明があった。

また、職員間の対話促進やオフィス環境の改善、ICT支援員の配置により、働きやすい環境づくりとワークライフバランスの確保を目指す。

(3) 不祥事ゼロプログラム(副校長)◆資料参照 別紙

昨年度の同じ内容を引継ぎ、大きな変更はない。

(4) 意見聴取と協議 … (3)の説明後に頂いたご質問と回答をまとめて記載

金子委員

インクルーシブ教育やUDフォントの活用など、先進的な取組について今後も継続していくことへの期待が示された。授業においては、生徒が自由に発言できる環境づくりの重要性が指摘された。さらに、学校運営の評価指標として退学者数の推移に注目しつつ、生徒募集の工夫や部活動の魅力発信の必要性について言及があった。加えて、闇バイト問題についても、学校全体での啓発強化が求められた。

また、ICT支援員についてどのように活用しているのか質問があった。

学校側(回答)

ICT支援員については、教職員のICT活用支援やAI活用に関する助言など、幅広い役割が期待されている。来校頻度が限られている中でも、継続的に効果を発揮できる支援体制や仕組みづくりが今後の課題であるとされた。

石井委員

小学校の立場から見ても、本校の生徒は挨拶ができ、良い手本になっているとの評価があった。また、教員不足は小学校でも共通する課題であり、その対策として、現在在籍している教職員が働きやすい環境を整備することの重要性が指摘された。

堺委員

中学校部活動の地域移行が進展している現状が共有された。今年度から段階的に移行が進む中で、この変化が高校の部活動や入学者にどのような影響を与えるかは不透明であり、今後注視していく必要があるとの見解が示された。

吉田委員

地域行事への協力に対する感謝が述べられるとともに、学校周辺での職員の喫煙に関して地域住民が懸念している旨が指摘された。地域との良好な関係維持のためにも、対応策の検討が求められた。

有馬委員

SNSや闇バイトに関するトラブルや犯罪が増加している現状を踏まえ、学校とPTAが連携して対応していく必要性が示された。また、自転車の危険運転については、学校だけでなく家庭でも指導していく必要があり、文書配付などの対応も検討すべきとの提案があった。

岩峯委員

自転車安全に関して、生徒自身が危機意識を持ちにくい現状を踏まえ、保護者への啓発の重要性が強調され、何か手立てを考えていたりするかという質問があった。あわせて、具体的な取組についての情報共有を求める意見が示された。

学校側（回答）

これまで主に生徒への直接指導を中心に行ってきたが、今後は「すぐーる」などのツールを活用し、保護者への情報発信や協働的な指導のあり方についても検討していく方針が示された。

7 報告事項

文化祭の日程について共有

8 その他　なし

9 閉会

【令和8年度の予定】

・令和8年11月10日（火）第2回学校運営協議会

・令和9年3月2日（火）第3回学校運営協議会